

研究成果及び活動一覧 (1998. 1. 1~12. 31) [五十音順]

- A : 著書、論文、書評など  
B : 学会での口頭発表その他の活動  
C : 講演、論説など  
D : 学術的調査

井上英明

- A : 1 (論文)「こころあまりてことばたらず——日本古物語の原型——」『普遍文明と民族文化』、(明星大学日本文化学部編、編集責任者小堀桂一郎、刊行責任者井上英明) pp. 61~91、3. 10.  
2 (論文)「伊勢物語成立私考——流動するみやびのテキスト——」『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科) 第6号、pp. 11~36、3. 25.  
3 (論文)「大英博物館で目を醒した〈眠れる森の美女〉」『文学・語学』(全国大学国語国文学会編、おうふう) pp. 22~31、5. 31.  
4 (共著)『二・三十年代中国と東西文芸』(鈴木義昭編、東方書店)、「兩次大戦間英国文壇の『源氏物語』——アーサー・ウェイリーを中心に」、pp. 195~212、12. 12.
- B : 1 全国大学国語国文学会常任理事(学会運営)  
2 全国大学国語国文学会将来構想委員  
3 日・豪・ニュージーランド教師連盟理事(学会運営)  
4 東方学会評議員、日本文学部門国際シンポジウム設営委員  
5 日本比較文学研究紀要編集査読委員  
6 早稲田大学比較文学会理事(学会運営)  
7 公益信託英米教育奨学会運営委員長  
8 東方学会国際シンポジウム、セミナー司会 5. 22~23.
- C : 1 (講演)「海のシルクロード」(講座『街道と文学』新宿産経学園) 4. 24.  
2 (講演)「光源氏の子弟教育——『源氏物語』『乙女』の巻を中心に——」(源氏物語研究会、多摩パルテノン) 7. 2.
- C : 1 (論説)「私語雑誌」(月刊「健康」7月号 pp. 34~35) 7. 1.

牛村 圭

- A : 1 Another *Fin de Siècle*——The Boxer Uprising and a Discourse on Civilization in Japan——『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科) 第6号、pp. 43~54、3. 25.  
2 「文明批評家東郷茂徳——『蹇蹇録』と併せ読む『時代の一面』」、明星大学日本文化学部編『普遍文明と民族文化』、pp. 295~323、3. 10.
- D : 1 浅田榮次の事績につきアメリカ合衆国シカゴ大学東アジア図書館において資料調査、9. 21~27.

大原千代子

- A : 1 「ジョージ・エリオット小伝」、ジョージ・エリオット著『ミドルマーチ』第2巻、

pp. 399~411、講談社文芸文庫（全4巻）、9. 10.

- C : 1 「小説の面白さ——ジョージ・エリオットの場合」、明星大学青梅校舎第13回公開講座、11. 7.

#### 岡田恒雄

- A : 1 フォーラム「日本におけるハイナー・ミュラー受容」、『ワセダ・ブレッター』第5号、早稲田大学ドイツ語学・文学会編集委員会〔編〕pp. 63~75、3. 25.
- B : 1 発表“The Alienationeffect in the Kabuki Plays of Tsuruya Nanboku the fourth”, International Symposium „Japanese Theatre in the World“ München, Prinzregententheater, 5. 21.
- 2 学会発表（コメンテーター）：「『レオンスとレーナ』について」、日本独文学会秋季研究発表会、関西学院大学、10. 18.
- 3 発表「四世鶴屋南北の異化効果について——5月ミュンヘン国際シンポジウム発表報告」、ドイツ戯曲研究会、早稲田大学、12. 19.

#### 加藤めぐみ

- A : 1 “Fear of Japan : The Formation of Japanese Invasion Novels in Australian Literature”、『明星大学研究紀要』（日本文化学部・言語文化学科）第6号、pp. 182~190、3. 25.
- B : 1 オーストラリア・ニュージーランド文学会運営、年間
- 2 日豪ニュージーランド教師連盟運営、年間
- D : 1 「オーストラリア文学にみる日本人像について」（文部省科学研究奨励研究（A）課題）に関して、オーストラリア、キャンベラの Australian Defence Force Academy 及び Australian National Library にて資料調査。3. 15~23. 及び7. 30~8. 27.

#### 河野石根

- D : 1 「大型構造物と景観」——（科学研究費総合研究の一部）——に関する実地調査

#### 古田島洋介

- A : 1 随筆：해인사 문화여행을 다녀와서、韓国比較文学会「比較文学」第22輯、pp. 247~251、平成9年12. 25、ソウル／「海印寺文化旅行報告記」の韓国語訳（朴真秀〔訳〕）〔平成10年6. 2. 受領〕
- 2 図書紹介：「世界人リッチの全貌」、平川祐弘〔著〕『マッテオ・リッチ伝』全三巻（平凡社《東洋文庫》）の紹介記事、平凡社「月刊百科」no. 424（平成10年2月号）「著訳者近況」欄、p. 67、2. 1.
- 3 「暗記できればまずよし——〈漢文訓読=記憶術〉論の検証」、明星大学青梅校舎日本文化学部共同研究論集・第1輯『普遍文明と民族文化——言語現象・造型表現・文明論の領域——』（〔編集責任者〕小堀桂一郎、明星大学日本文化学部）、pp.

- 182～218、3. 10.
- 4 「〈漢文訓読＝記憶術〉論 再検証」、『明星大学研究紀要』（日本文化学部・言語文化学科）第6号、pp. 85～95、3. 25.
  - 5 「〈赤い糸〉の伝説——その原話と歴史的変遷」明星大学情報・日本文化学部父兄会「青梅会報」第13号、pp. 89～94、10. 9.
- B : 1 シンポジウム／パネリスト：国際日本文化研究センター・上垣外憲一教授 [主催] 特定研究「環太平洋圏における日本文化の成立とその展開：シンポジウム〈東アジア比較文化史研究〉」、国際日本文化研究センター、2. 22～23.
- 2 学会／参加＋議長：1997年度「東アジア比較文化国際会議」日本支部会議に参加、指名により日本支部総会の議長を担当、成城大学、3. 14.
  - 3 学会／司会：日本比較文学会創立50周年記念「第60回全国大会」研究発表（B室：午前）の司会、大阪女子大学、6. 14.
  - 4 学会／議長＋通訳：第25回中日教師研討会にて小堀桂一郎氏の基調講演「心の教育と伝統文化」を通訳、また、第五分科会にて議長を担当、高橋史朗氏の研究報告「臨床心理学と感性教育の動向」に関する発表と質疑応答を通訳 [中国語]、台湾：基隆市、基隆市文化センター、8. 25.
  - 5 「三国鼎立？——關於杜牧「山行」詩的〈坐〉字——」 [中国語]、第3回「東アジア比較文化国際会議」北京大会、中国：北京大学正大国際中心、10. 11.
  - 6 「漢文訓読の正体」、日本比較文学会創立50周年記念第36回東京大会、明星大学青梅校舎（N-302教室）、10. 24.
- C : 1 テレビ出演（コメンテーター）：TBS テレビ「たのしい動物大集合！ 大自然からおめでとうスペシャル」、1. 2、8:00～10:00.
- 2 「〈赤い糸〉の伝説」、明星大学青梅キャンパス第12回公開講座、6. 27.
- D : 1 研究調査：「東恩納寛惇文庫」の漢籍資料調査、沖縄県立図書館、7. 13～14.
- 2 研究調査：「行天宮」など道教寺院の勸善書の資料調査、台湾：台北市＋九份、8. 27～28.
  - 3 研究調査：潘飛声『説劍堂集』（狩-4-14967-6）の閲覧・調査、東北大学附属図書館、11. 16～17.

### 小堀桂一郎

（日刊新聞、週・月刊雑誌類所掲のコラム、談話、短文は除く）

- A : 1 （論文）「キリスト教神概念との葛藤」、産経新聞連載「地球日本史」第66～71回、産経新聞社、1. 26～1. 31.
- 2 （論文）「日本人の宗教心は減びてゐない」、『正論』二月号、pp. 130～139、産経新聞社、2. 1.
  - 3 （講演筆録）「現代に生きる天神地祇」、『神社本庁教学研究所紀要』第三号、pp. 224～247、神社本庁、2. 20.
  - 4 （論文）「深層に於ける融合と対決」、『普遍文明と民族文化』第一輯、pp. 7～58、明星大学日本文化学部編、3. 1.

- 5 (論文)「森鷗外と山縣有朋——明治の終焉まで」、『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科)第六号、pp. 53~71、明星大学日本文化学部、3. 25.
- 6 (論文)「日本国家自覚の成立」、『日本及日本人』陽春号、pp. 20~33、日本及日本人社、4. 1.
- 7 (論文)「精神の危機とその克服」、『祖国と青年』五月号、(通巻236号) pp. 40~53、日本青年協議会、5. 1.
- 8 (書評)中村都史子著『日本のイプセン現象 1906-1916』、なだ書房、『明治翻訳文学全集・イプセン集』、5. 26.
- 9 (書評)『平泉澄博士史論抄』、『正論』六月号、pp. 334~5、産経新聞社、6. 1.
- 10 (論文)「西洋世界からの訪問者」、産経新聞連載「地球日本史」第201-206回、産経新聞社、7. 8~11、7. 14~15.
- 11 (講演筆録)「憲法の天皇条項」、『戦後政治への挑戦』、pp. 187~193、山紫会、7. 18.
- 12 (単行著書)『靖国神社と日本人』276 ps. PHP 研究所、8. 4.
- 13 (論文)「キリスト教創造主と日本の神々」、『地球日本史』(1)、pp. 219~238、扶桑社9. 30. [A: 1の再録]
- 14 (論文)「水戸学の近代性」、産経新聞連載「地球日本史」第281~285回、産経新聞社10. 15~17、10. 19~20.
- 15 (書評)『平泉澄博士史論抄』、『藝林』第四十七卷第四号 pp. 55~73、藝林会11. 1.
- 16 (単行著書)『森鷗外——批評と研究』391ps. 岩波書店、11. 13.
- 17 (単行著書)『国家主権を考へる』61ps. 国民会館叢書第二十四輯、国民会館11. 15.
- 18 (論文)「西洋世界からの訪問者」、『地球日本史』(2)、pp. 405~424、扶桑社、11. 30. [A: 9の再録]
- 19 (書評)オリヴィエ・ジェルマントマ著『日本待望論』、産経新聞朝刊、12. 20.
- B : 1 (講演)「新しいアジアの哲学と大学の使命」、全九州学生ゼミナール十周年記念フォーラム、於福岡、3. 15.
- 2 (講演)「靖国信仰の発祥について」、神道史学会全国大会、於神宮皇学館大学、6. 7.
- 3 (講演)「心の教育と伝統文化」、第二十五届日華交流教育会研究会、於中華民国基隆市文化中心、8. 25.
- 4 (講演)「日本的価値観の復権」、日本世界戦略フォーラム定例研究会、於市谷 GH、10. 22.
- C : 1 (講演)「国際社会における日本の役割」海上自衛隊木更津補給所幹部会、1. 23.
- 2 (論説)「神武創業の昔といふ事」、『神社新報』第2447号、「主張」、2. 9.
- 3 (講演)「将来の世界に果す日本の責務」海上自衛隊横須賀総監部幹部会、2. 23.
- 4 (講演)「未来の使命は歴史から学ぶ」海上自衛隊大湊地方総監部幹部会、3. 10.
- 5 (講演)同上演題、海上自衛隊第二航空群八戸基地幹部会、3. 11.
- 6 (論説)「教職は聖職なり」、『日本の教育』第453号、pp. 1~2、日本教師会、4. 15.
- 7 (講演)「東京裁判と国際法」、「明るい日本国会議員連盟」定例研究会、於自由民主

- 党会館、5. 7.
- 8 (論説)「否定の悪霊との戦ひ」、『日本の息吹』五月号、巻頭言、日本会議、5. 15.
  - 9 (講演)「東京裁判の呪ひ」、「正論を聞く集ひ」月例会、於産経会館、5. 16.
  - 10 (論説)「国体に即応した憲法を」、『月曜評論』第1353号、月曜評論社、5. 25.
  - 11 (講演)「甦れ日本」、日本会議熊本県本部設立大会、於熊本市文化会館、6. 5.
  - 12 (講演)「四月二十八日は何の日か」、国民会館武藤記念講座第752回例会、於大阪市国民会館、6. 13. [cf. A : 17]
  - 13 (論説)「教育権の所在」、『神社新報』第2464号、「主張」、6. 22.
  - 14 (論説)「天皇陛下の御訪韓問題を憂ふ」『神社新報』第2467号、「主張」、7. 13.
  - 15 (講演)「日本人はどう生きるのか」、国民文化研究会主催第43回全国学生青年合宿教室、於阿蘇青年の家、8. 8.
  - 16 (論説)「台湾政策に見る米国の矛盾」、『ASIAN REPORT』No. 302、pp. 22~24、マスコミ総合研究所、8. 15.
  - 17 (講演)「クリントン訪中問題を論ず」、マスコミ総合研究所第223回定例研究会、於キャピトル東急ホテル、8. 19.
  - 18 (評論)「アメリカは親中排日の過誤を繰返すのか」、『正論』九月号、pp. 128~137、産経新聞社、9. 1.
  - 19 (論説)「クリントン訪中の総括」『ASIAN REPORT』No. 303、pp. 2~26、マスコミ総合研究所、9. 15. [C : 17の成文化]
  - 20 (講演)「日本の再生」、日本会議沖縄県本部設立大会、於那覇市神宮会館、9. 18.
  - 21 (論説)「国防意識涵養のために」、『神社新報』第2476号、「主張」、9. 21.
  - 22 (講演)「日本の再建」、海上自衛隊幹部学校特別講義、10. 12.
  - 23 (講演)「日本的価値観の基軸」、三潁修学院平成十年度総会記念講演、11. 15.
  - 24 (単行共著)『今、何が大事か——伊勢の神苑から』、共著者、ロマーノ・ヴルピッタ、幡掛正浩、ps. 76、伊勢神宮崇敬会、11. 20.
  - 25 (講演)「建武中興と後醍醐天皇」、日本青年協議会歴史体験セミナー、於吉野、11. 22.
  - 26 (評論)「こころの教育——私の意見」、『正論』十二月号、pp. 64~74、産経新聞社、12. 1.
  - 27 (序文) 鄭春河著『台湾人元志願兵と大東亜戦争』、「鄭春河氏への謝辞」pp. 1~6、展転社、12. 8.

#### 柴田雅生

- A : 1 「訓点資料の訓読文について」、『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科)第6号、pp. 37~51、3. 25.
- 2 学会展望：平成九年国語国文学界の展望 中世・近世(音韻・文字・表記)、『文学・語学』第161号、pp. 70~71、10. 31.

### 正慶 孝

- A : 1 『情報文化の学校』(松岡正剛氏ほか18氏と共著、木曜日「情報のなりたち」一時限目「歴史をふりかえる」『欲望と発展のルール、「もっと、もっと」はもういらない』)、NTT出版、pp. 234~247、4. 22.
- 2 『バイオメーション——21世紀の方法序説』(渥美和彦東京大学名誉教授ほか7氏と共著、渥美氏と軽部征夫東大教授、建築家黒川紀章氏、石井威望慶応義塾大学教授、日高敏隆滋賀県立大学学長、藤正巖東大教授、米沢富美子慶応義塾大学教授、山折哲雄白鳳女子短大学長との対談各章解説部分および最終章バイオメーション宣言部分執筆)、清流出版、10. 22.
- 3 『新世紀ビジュアル大辞典』(金田一春彦氏ほか2氏監修、戦後政治および実業家関係執筆)、学習研究社、11. 9.

### 高柳俊男

- A : 1 書評：西成田豊著『在日朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、在日朝鮮人研究会編『コリアン・マイノリティ研究』創刊号、pp. 77~79、新幹社、1. 30.
- 2 「『植民地と大学』について講義する」、『変貌する大学 IV 〈知〉の植民地支配』、pp. 111~123、社会評論社、9. 30.
- 3 追悼文「朴慶植先生と資料収集」、『在日朝鮮人史研究』28号(朴慶植先生追悼号)、p. 183、12. 15.
- B : 1 報告「日本人と朝鮮語——隣国の言葉をどう学んできたか」、明星大学日本文化学部合同研究会、5. 19.
- 2 報告「北朝鮮映画『郷土を守る人々』と全致五のこと」、在日朝鮮人運動史研究会、6. 26.
- 3 報告「久間十義『海で三番目につよいもの』にみる在日朝鮮人のアイデンティティ」、鐘声の会、11. 15.
- C : 1 講演「アジアと共に生きる」、板橋区大原社会教育会館「時事問題セミナー」、1. 29.
- 2 フィールドワーク案内、「第9回 歩いて知る東京のなかの『朝鮮』」(東村山市・小平市・あきるの市)、鐘声の会、5. 17.

### 田中 敏

- A : 1 「ドイツでぶつけてみた私の『近現代史観』」、『諸君!』1月号 p. 216~233、文藝春秋社
- 2 「ナチスの亡霊が囁く『日本悪玉論』」、『諸君!』2月号 p. 242~251、文藝春秋社
- 3 „Zu Prof. Iwabuchis japanischer Vergangenheitsbewältigung——eine Polemik“, 『OAG NOTIZEN 9/98』 p. 52~63, Deutsche Gesellschaft für Natur- und Völkerkunde Ostasiens (OAG Tokyo)
- C : 1 Podiumsdiskussion  
„Vergangenheitsbewältigung in Deutschland und Japan“ Deutsche Ge-

sellschaft für Natur-und Völkerkunde Ostasiens (OAG Tokyo), 10. 21.

#### 万恵洲

- A : 1 「汉语对欧化的语法选择 (上)」『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科) 第6号、pp 192-204, 3. 25.

#### 菱山覚一郎

- A : 1 「戦後日本における民間教育運動の方向——民教協の流れを受け継ぐ雑誌を中心に——」、『明星大学研究紀要』、(日本文化学部・言語文化学科)、第6号、pp. 150～158、3. 25.
- B : 1 研究発表：「戦後日本における初期社会科批判——カリキュラム改造と学習指導法をめぐる批判を中心に——」、多摩地区教育研究会、3. 19.
- D : 1 昭和初期の民間教育運動について：南多摩地区の民間教育運動（教育科学運動との関係を中心に）、8. 28～30.

#### 秀村研二

- A : 1 「教会と教会のあいだ——韓国社会におけるキリスト教の受容と変容をめぐる——」、聖心女子大学キリスト教文化研究所編『地球化時代のキリスト教——自己変成の途』春秋社、pp. 173～188、1. 30.
- 2 「『両班』といわぬ人々——80年代なかばの韓国東海岸漁村の調査から」鳴陸奥彦・朝倉敏夫編『変貌する韓国社会——1970～80年代の人類学調査の現場から』第一書房、pp. 185～222、6. 20
- 3 “Social Change and Christianity in Modern South Korea”, Mutsuhiko Shima & Roger L. Janelli (eds.), *The Anthropology of Korea: East Asian Perspectives* (Senri Ethnological Studies No. 49), National Museum of Ethnology, pp. 111～127, 9. 29.
- 4 (項目執筆)「韓国の占い師」、「韓国の新宗教」、「韓国のシャーマニズム」「巫堂ムードン」、「韓国の死後結婚」、「祈祷院」佐々木宏幹・宮田登・山折哲雄編『日本民俗宗教辞典』東京堂書店、4. 30.
- 5 「宗教」松原俊孝編『ハンドブック韓国——ことばと文化』東方書店、pp. 181～185、7. 30.
- B : 1 「牧師と教会——韓国キリスト教の一断面」、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所プロジェクト研究会「『中華』に関する意識と実践の人類学的研究」ワークショップ「韓国社会の変動と宗教：近年のフィールドワークの成果から」1. 24.
- 2 「儒教と巫俗のあいだ——韓国社会におけるキリスト教」、「宗教と社会」学会・ワークショップ「東アジアにおけるキリスト教の受容」於九州大学、7. 12.
- D : 1 韓国近世郷村社会史研究現地調査（忠清北道、鎮川郡、槐山郡、清州市、沃川郡）3. 2～3. 31.

- 2 「韓国社会における都市化の過程に関する文化人類学的研究」(平成10年度文部省科学研究費補助金 研究代表:伊藤亜人)による調査・研究、大韓民国ソウル特別市、京畿道高楊市、慶尚北道浦項市清津里、8.14~9.12.

深澤 清

- A : 1 「The Early Poems of Seamus Heaney」、『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科) 第6号、pp.55~63、3.25.
- 2 「Wilde's American Lecture Tour」、『Wilde News Letter 15』The Oscar Wilde Society of Japan、p.12~13、8.1.
- B : 1 「Wilde's Family (1) —父ウィリアムの死がもたらすもの」北沢ギャラリー(神田)、9.19.
- 2 「語り部としてのワイルド」第23回日本ワイルド学会、神戸市立外国語大学、11.21.
  - 3 日本ワイルド学会幹事・書記(通年)
- D : 1 アイルランド Trinity College Library、Irish National Library で資料調査、8.2~8.14.

矢野浩三郎

- A : 1 編・訳:オーガスト・ダーレス他『シデムシの歌』(「恐怖と怪奇(児童向け短編集)第1巻」)、岩崎書店、158ps、6.30.
- 2 翻訳:ジョン・コリア「ナツメグの味」(短編)を北村薫編『謎のギャラリー特別室』に収録、マガジンハウス、pp.129~143、7.23.
  - 3 編・訳:ロッド・サーリング他『真夜中の太陽』(「恐怖と怪奇 第2巻」)、岩崎書店、158ps、7.30.
  - 4 編・訳:ジェローム・ピクスビー他『今日もいい天気』(「恐怖と怪奇 第3巻」)、岩崎書店、158ps、9.30.
  - 5 論考:「アジアの翻訳家たち」(「海を越える翻訳家 1」)、『JUCC通信』9月(第51号)、日本ユニ著作権センター、pp.1~3、9.20.
  - 6 論考:「聖ヒエロニムスの日」(「海を越える翻訳家 2」)、『JUCC通信』10月(第52号)日本ユニ著作権センター、pp.1~3、10.20.
  - 7 翻訳:ハロルド・ウィリアムズ「レフ・ニコラエヴィチ・トルストイ」、ジューナ・バーンズ「フランク・ハリス」、ヘイデン・チャーチ「ジョージ・バーナード・ショー」(クリストファー・シルヴェスター編『インタヴューズ I』に収録)、文藝春秋、p.271~279、p.319~326、p.384~391、11.1.
  - 8 論考:「チェコ 1992年」(「海を越える翻訳家 3」)、『JUCC通信』11月(第53号)日本ユニ著作権センター、p.1~3、11.20.
  - 9 翻訳:スティーヴン・キング『ドロレス・クレイボーン』(文庫版)、新潮社、357ps、12.10.
  - 10 編・訳:W・W・ジェイコブズ他『猿の手』(「恐怖と怪奇 第4巻」)、岩崎書店、

158 ps、12. 30.

- B : 1 「翻訳の難所とは何か」、第6回明星大学日本文化学部合同研究会、1. 28.  
 2 第2回亜細亜翻譯家會議に日本翻訳家協会代表として参加。国際翻訳家連盟のアジア太平洋地域センター設立に携わる。(於ソウル、プレジデントホテル)、8. 3.~6.
- C : 1 随筆：「訳者冥利」、『アサヒグラフ』2月13日号、朝日新聞社、p. 44.  
 2 書評：「英国王室スキャンダル史」、『週刊文春』2月26日号、文藝春秋、p. 153.  
 3 談話筆録：「ホラー小説に関わった四十年」、『別冊幻想文学』、アトリエOCTA、pp. 21~27、6. 25.  
 4 随筆：「漢語文化からヤマトことばへ」、『翻訳の世界』12月号、バベル・プレス、pp. 14~17.  
 5 連載コラム：「翻訳者は裏切り者」、『西日本新聞』、西日本新聞社、日曜版（読書欄）に連載、4. 5、12、19、26、5. 3、10、17、24、31、6. 7、14、21、28、7. 5、12、19、26、8. 2、9、16、23、30、9. 6、13、20、27、10. 4、11、18、11. 1、8、15、29、12. 6、13、20.

#### 山下善明

- A : 1 「《場所の論理》にみるゲーテの詩」、明星大学日本文化学部論集、第一輯『普遍文明と民族文化』、pp. 126-155、3. 10.  
 2 (翻訳)「A・バルツィ著・書評“われわれ日本人”」、『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科)第6号、pp. 138~121、3. 25.
- B : 1 (学会発表)「歴史的な身体——西田哲学から」、本田技研・共創フォーラム、12. 18.
- C : 1 (講演筆録)「魂の問題としての自然環境問題——私たちに救いはあるか」、明星大学青梅校舎父兄会機関誌『青梅会報』第13号、pp. 65~75、10. 9.
- D : 1 ドイツ語にみる哲学的言語の分析、上智大学アルムブルスター研究室・アドルノ研究会、年間毎週1回

#### 和田正美

- A : 1 「日本人にとってのフランス——永井荷風と島崎藤村」『普遍文明と民族文化』(明星大学日本文化学部発行) pp. 156~181、3. 10.  
 2 「昭和十九年十一月の日記作者達」『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科)第6号、pp. 73~83.
- B : 1 日本比較文学会創立50周年記念第36回東京大会(於明星大学青梅校舎)に実行委員長として参加す。
- D : 1 日本史と日本文学の接点の研究：奈良・大和地方の社寺の調査、6. 12~13.  
 2 日本史と日本文学の接点の研究：隠岐(島根県)の社寺等の調査、8. 11~14.

平成10年：日本文化学部合同研究会（任意参加）が以下の通り開催されました。

第6回：主題「文化の〈写像〉を求めて」、1. 28.

発表者：丸山 正義（一般教育）「オペラの悦楽——〈タイスの瞑想曲〉をめぐって」

矢野浩三郎（言語文化）「翻訳の難所とは何か」

第7回：主題「言語の〈場〉、表現の〈場〉」、5. 19.

発表者：高柳 俊男（一般教育）「日本人と朝鮮語——隣国の言葉をどう学んできたか」

千崎千恵夫（生活芸術）「〈場〉を考える——インスタレーションについて」

第8回：主題「表現を支えるもの」、7. 7.

発表者：柴田雅生（言語文化）「送り仮名の系譜」

渋谷和良（生活芸術）「版表現の多様性」

\*いずれも日本文化学部研究棟 4F：参考図書閲覧室（N-421）にて実施。